

令和8年6月定例会一般質問

通告 8

質問 子どもの主体的な学びと地域の担い手育成につながる「ラー ケーション」の研究を

3 番 くりす ようすけ 栗栖 陽介 議員

【質問：栗栖 陽介 議員】

3 番、栗栖陽介です。子どもの主体的な学びと地域の担い手育成につながるラーケーションの研究をについて質問いたします。

近年、愛知県を発端として、ラーケーションという仕組みが全国に広がりつつあります。これは学びと休暇を組合せた造語で、子どもが保護者等とともに平日に校外で体験や探究の学び・活動を自ら考え企画し実行するもので、校外での自主的な学習活動であり、登校しなくても欠席扱いとならない仕組みです。

私はこの仕組みが、本町子どもたちにとって大きな可能性を持つものと考えます。私がこの仕組みに最も価値を感じておりますのは、子ども自身が計画を立てるところから始まるという点であります。与えられた学びではなく、子どもが自ら計画し実行し振り返る主体性こそが、これからの時代に求められる学ぶ力につながると考えるのであります。

そして、その学びを確かとするものが体験を振り返るレポートの提出で、体験したことを自分の言葉でまとめることは、見聞きした事柄を整理し思考力や表現力を育てる学びの総仕上げとなります。

さらにそのレポートを学級で共有しレポートという成果が残ることで、これは単なる旅行や遊びではなく、確かな学びであったと、学校・家庭・地域の誰の目にも明らかになるものであります。

その上で、この仕組みの意義は本町にとって大きく2つあると考えます。

一つは、本町ならではの開陽台の眺望や根釧台地の開拓史という教室だけでは決して得られない、生きた学びの宝庫があるということです。

子どもが幼い頃から地域の基幹産業に親しみ、その仕事の誇りに触れておくことは、本町が抱える酪農や農業の後継者・担い手の確保という課題に対し、担い手を地元から育て



る入り口という確かな意味を持つものと考えます。

もう一つは、本町を離れての学びで、例えば本州には千数百年の歴史を刻む神社仏閣や史跡が数多くあります。子どもが自ら計画を立て、実際にその場に立って悠久の歴史などに触れることは、またとない機会になります。こうした遠方での体験はとりわけ得難いもので、ラーケーションはその貴重な後押しとなります。

以上を踏まえ、本町にふさわしいラーケーションの在り方について2点質問いたします。

質問 学校外での「子どもが主体となる学び」の教育的価値を

答弁 即時導入は考えていません

【質問：栗栖 陽介 議員】

学校での子どもが主体となる学びの教育的価値をについてお伺いします。

子ども自身が学ぶ場所と内容を計画し、酪農の搾乳や哺育、畑作や漁業を体験すること、あるいは本州の神社仏閣や史跡に触れて日本の歴史を学ぶなど、教室の外には本町ならではの学びと遠方でしか得られない学びの双方があると考えます。

こうした子どもが自ら考え実行する学校外での体験的な学びの教育的価値について、教育長のお考えをお伺いします。

【答弁：教育長】

栗栖議員御質問の子どもの主体的な学びと地域の担い手育成につながるラーケーションの研究をの1点目、学校外での子どもが主体となる学びの教育的価値をについて御答弁申し上げます。

子どもが自ら学びの目的と方法を考え、学校外で多様な体験を通して学びを深めることについては、本町としても主体的・対話的で深い学びを柱として子ども主体の授業づくりを進めており、持続可能な社会の創り手の育成という観点からも、議員御提案の趣旨は大変意義のあるものと認識しております。また、地域の産業や歴史に触れる学びは、教科学習を生活や地域社会と結びつける点で教育的価値のあるものと考えます。

一方で、ラーケーションを制度として取り入れることについては、現時点では慎重な立場であります。家庭の就労形態や経済状況等により体験機会の格差を助長する懸念に加え、教育課程との整合、出欠認定の在り方など整理が必要と考えており、さらには計画確認や事前事後の学習支援、振り返りの評価等で教職員の新たな業務負担といった観点からも、慎重な検討が必要と考えております。

広義には大人の働き方改革や地域経済の活性化といった観点で、有用性があることは理解しておりますが、教育的立場からは現時点で即時導入は考えておりません。

なお、現状でも家族旅行等で平日に欠席する児童生徒も一定数いることや、保護者の就労事情により平日にしか休みがとりにくい御家庭があることも承知しております。

そういった中、学校では成績評価等において学習の到達度に基づく評価を徹底し、欠席数のみをもって不利益が生じないように配慮しているところです。

ラーケーションの制度導入そのものについては、全国的・全道的な議論や先行事例の検証を注視しつつ、教育的観点、機会の公平性、教職員の業務負担等を総合的に踏まえ、慎重に検討してまいります。

今後も議員御提案の趣旨を踏まえ、子どもたちの主体性を伸ばし、地域の担い手を育む学びの環境整備に努めてまいりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

質問 学びの質の担保と学習の影響への対応を

答弁 ラーケーション制度導入は慎重な検討が必要と考えます

【質問：栗栖 陽介 議員】

3 番、栗栖陽介です。学びの質の担保と学習の影響への対応をについてお伺いします。

私は事前の計画と事後のレポート提出を組合せることで、単なるレジャー化を防ぎ、むしろ学びを深めることができると考えます。

また、年に数日程度であれば、事前の届出に基づく学校の備えや家庭での補完によって、学習への影響は十分に対応できるものと考えます。

学びの質を担保する工夫と、授業を離れることによる学習への影響をどう捉えるか、教育長のお考えを伺います。

【答弁：教育長】

栗栖議員御質問の2点目、学びの質の担保と学習の影響への対応をについて御答弁申し上げます。

ラーケーションは、子どもたちが自ら学びを設計し地域資源に触れることで、主体性や探求心を育むという点で教育的意義があるものと考えております。

議員御提案のとおり、事前の計画づくりとレポート提出は活動のレジャー化を防ぎ、学びを可視化する上で有効な手段であると理解しております。

一方で、学校教育においては教室での授業の連続性と学級集団の相互作用の中で深まる

学びがあり、特に系統性の高い教科では日々の積み重ねが理解の定着に直結するといったこともございます。また、行事や協働的な学習を通じて育まれる社会性や協働性の観点からも、授業を離れることによる影響が全くないとは言えません。

本町の学校では、現在も欠席理由の如何に関わらず、補充学習や課題配付等により学習保障を図っております。

仮にラーケーション制度を導入した場合でも、学びの質を担保する工夫といたしましては同様の対応になるかと思いますが、計画確認や振り返りの評価等による教職員のさらなる業務負担が懸念されます。また、家庭の役割としましても、毎日の基礎学習の確保、レポートの整理等の補完において、理解と協力が不可欠になってくるものと考えております。

以上のことを踏まえ、学びの質の担保と学習への影響の両面からラーケーション制度の導入については、条件整備と影響の検証を前提に慎重に検討していく必要があると考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。